かごしま祭時記

妙音十二楽

日置市吹上町田尻／中島常楽院

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から日置市吹上町田尻に伝わる「妙音十二楽」をご紹介します。

古来より受け継がれる僧侶の奏でる厳かな調べ

毎年10月12日の午後、日置市吹上町田尻の中島常楽院には琵琶や笛の素朴な音色が響き渡ります。僧侶たちが奏でる厳かな調べに、見物客は息をひそめて聞き入ります。

「妙音十二楽」は大同3（808）年、天台宗常楽院の開祖、満正院阿闍梨が制定したとされる宗教音楽です。薩摩・大隅・日向守護職を命じられた島津忠久が薩摩へ下ったのを機に、建久7（1196）年、常楽院19代住職の宝山検校は現在の日置市吹上町田尻に常楽院を移し、その際に妙音十二楽も伝わったと考えられています。当時、この地は沼地で、その主である大蛇を宝山検校が祈祷で鎮めた日が10月12日であったことから、10月12日に妙音十二楽が演奏されるようになりました。昭和46（1971）年には鹿児島県の無形文化財に指定されています。

「妙音十二楽は島津家の武運長久を願うと共に、五穀豊饒や庶民の平穏無事を与えてくださる堅牢地神の威徳を称える意味がありました」と教えてくださったのは常楽院48代住職の栗山光人さん。現在も毎年10月12日に30代～80代の僧侶10人ほどが鹿児島県と宮崎県から集い、演奏が行われます。「松風」「村雨」「杉登」などの全12曲を琵琶と笛、太鼓、手拍子の4種類の楽器で演奏し、釈文とよばれる経典も唱えられます。また「導師」役の僧侶が堅牢地神をお呼びしてその威徳を称える「堅牢地神秘密供養法」も同時に執り行われます。これらが一体となって妙音十二楽が完成するのです。

演奏当日は午後1時の開始に合わせて100人前後の見物客が中島常楽院を訪れ、古来より受け継がれる幽玄な調べを堪能します。

一生懸命に取り組む背中を子や孫に見せていきたい。

常楽院　48代住職
栗山 光人 さん(55)

後継者不足は私たちにとっても切実な問題です。私たちが一生懸命に取り組むその背中を見せることで子どもや孫たちが僧侶を目指し、将来、妙音十二楽の継承を担ってくれたらと願っています。

ところで妙音十二楽の琵琶は薩摩琵琶の源流であることをご存知でしょうか？　常楽院31代渕脇寿長院が島津忠良の命を受け、力強い音色が出るよう改良したのが現在の薩摩琵琶です。勇壮な薩摩琵琶と違い、優しい音色を奏でる琵琶の音に注目してみてください。

日置市

日置市は、平成17年に東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町が合併して発足した総人口50,250人（平成27年8月現在）のまちです。県西部、薩摩半島のほぼ中央に位置し、伝統行事や薩摩焼、優れた泉質の温泉などが特徴です。写真は10月の第4土・日に開催される「妙円寺詣り」。武者行列や民俗芸能の披露などが行われ、多くの見物客で賑わいます。